

安心の地域  
医療を支える



# ジェイコー JCHO × ニュース Japan Community Health care Organization

2019 WINTER 冬号 | ジェイコーニュース | vol.20

独立行政法人地域医療機能推進機構

## CONTENTS

### p.02 ニュース

人吉医療センター 140 周年記念式典  
湯河原病院起工式が行われました  
新任院長メッセージ  
訪問看護ステーションが開設しました  
・東京高輪病院附属訪問看護ステーション  
・船橋中央病院附属訪問看護ステーション

### p.04 【連続企画】 病院長に聞く ⑫

#### 各地で発生する災害と JCHO

北海道病院 院長 古家 乾  
船橋中央病院 院長 横須賀 収  
京都鞍馬口医療センター 院長 島崎 千尋  
湯布院病院 院長 根橋 良雄  
司会：理事（広報担当） 前野 一雄

### p.08 【特集】 第4回 JCHO 地域医療総合医学会 継続テーマシンポジウム・シンポジウム座長より

福井勝山総合病院 院長 兜 正則  
宮崎江南病院 院長 白尾 一定  
本部 理事（管理・労務・経営担当） 西辻 浩  
本部 理事（医療・介護・地域包括ケア担当） 瀧村 佳代  
四日市羽津医療センター 院長 住田 安弘  
東京城東病院 院長 中馬 敦  
東京新宿医療センター 院長 関根 信夫  
東京蒲田医療センター 院長 石井 耕司

#### 新たな試み

一般社団法人 地域医療機能推進学会 事務局長 中村 仁

#### 参加者の声

#### 演題一覧

### p.14 【トピックス】

チーム表彰最優秀賞 熊本総合病院

チーム表彰優秀賞 北海道病院／大阪病院／  
神戸中央病院／三島総合病院

内視鏡手術支援ロボット（ダヴィンチ）の導入

### p.16 【JCHO GROUP】 全国病院 MAP



第4回 JCHO 地域医療総合医学会 特別講演で対談する尾身理事長と檀 ふみさん

# 災害と JCHO 各地で発生する

連続企画  
病院長に聞く ⑫

特集

第4回 JCHO 地域  
医療総合医学会  
今、JCHOに求められるもの  
（絆の継承とリノベーションへの挑戦）

# ジェイコー JCHO × ニュース Japan Community Health care Organization NEWS

- 11月1日 会議・研修
- 11月12日 JCHO 熊本総合病院調印式
  - ・ JCHO 熊本総合病院は八代市と「八代市立病院の病床再編移転及び外来診療機能譲渡に関する基本協定」に調印。来年4月、八代市立病院の外来診療と病床の一部を引き継ぐことが決定。
- 11月15日 病院長会議
- 11月16日 第4回 JCHO 学会  
～ 17日
- 12月7日 介護老人保健施設管理者会議
- 12月10日 JCHO 拠点病院医療班研修  
～ 11日
- 12月19日 JCHO 湯河原病院起工式



熊本総合病院調印式



拠点病院医療班研修の講師の皆さん

## JCHO 人吉医療センター 140 周年記念式典 JCHO 人吉医療センター 事務部長 作元 功

JCHO 人吉医療センターは、幕末に江戸の蘭学塾において西洋医学を学んだ初代院長の西道庵先生の時代（明治11年）から140年の節目の年を迎え記念パーティを開催致しました。地域の混声合唱団「コールアイダ」の迫力ある歌声をオープニングとし、木村正美第22代院長の挨拶へと移り、JCHO 尾身茂理事長、県、医師会、行政、地域住民、ボランティアの方など当院にご支援いただいています代表の方にご臨席とご挨拶を賜りました。会中では、下川恭弘副院長より140年間の当院の紹介と国際障害者ピアノフェスティバル金賞受賞の経歴をお持ちである月足さおりさんに澄み切った音色で巧みなピアノ演奏の素晴らしい時間を共にし、結びは、熊本県、宮崎県、鹿児島県の県境圏域消防組合三団体のご挨拶により幕を閉じました。今後も引き続き当地域に必要な医療・介護の確保を図り、地域の皆さまが安心して暮らせる地域づくりに貢献して参りたいと存じますのでよろしくお願いたします。



院長挨拶

理事長挨拶

## JCHO 湯河原病院起工式が行われました JCHO 湯河原病院 病院長 高取 吉雄

平成30年12月19日 JCHO 湯河原病院の新病院建設整備事業における起工式（地鎮祭）を新病院建設予定地（旧湯河原中学校跡地）で、挙行致しました。

新病院では、現病院と同様に整形外科をはじめ内科、リウマチ科、リハビリテーション科など8つの診療科により地域の中核病院として地域医療への貢献に向け取り組みます。また、軽度～中等度の救急患者の受入や在宅復帰に向けたリハビリテーションの強化を図るほか、健診事業の拡充を行うなど、予防を含む医療の充実・強化を図って参ります。



起工式（地鎮祭）



鍬入れの儀（内野理事）

## 新任院長メッセージ



JCHO 桜ヶ丘病院 病院長 相川 竜一

2018年7月1日付で静岡市清水区の桜ヶ丘病院に就任しました。当院は5～6年後に静岡市とともに地域密着型の新病院を開院する予定となっており、現在、着工に向けて経営基盤を安定させることに、スタッフ一丸で取り組んでいます。若輩者ですが、ご指導・ご鞭撻のほど、宜しくお申し上げます。



JCHO 星ヶ丘医療センター 病院長 増山 理

当院は大阪の郊外、枚方市にあります。単に急性期や慢性期に特化した医療ではなく、地域の皆さんに急性期から回復期、慢性期にかけて、病院～在宅における良質の医療を提供できるシステムを発展・構築していきたいと思っております。それには多職種の高い連携が必須ですが、当院のスタッフには十分な能力、熱意があるので実現できそうです。

## 訪問看護ステーションが開設しました



### JCHO 東京高輪病院 附属訪問看護ステーション

(H30. 6. 1 開設)

当院は、平成28年4月よりみなし訪問看護を看護師1名で開始し、この度、平成30年6月より訪問看護ステーションを開設しました。

現在、看護師3名で運営しています。当院の立地する港区は、大病院が多く存在している激戦区ではありますが、高齢者も多い地域であり、大病院では十分できない地域医療・ケアの提供を心がけ、例えば、緩和ケアを含む終末期までのシームレスな医療、高齢で徐々に病状悪化していく利用者への早期介入などで、在宅で少しでもその人らしい生活ができることを支えていけるようにしていきたいと思っています。

まだまだ少人数で規模は小さいですが、需要に合わせて規模の拡大を目指していけるように努力していきます。

看護部長 今 麗子



### JCHO 船橋中央病院附属訪問看護ステーション

(H30. 6. 1 開設)

平成30年6月より訪問看護ステーションを開設いたしました。半年が経過し、地域の在宅診療医やケアマネジャーからの依頼も増え、現在の利用者は60名、訪問件数は320件を超えました。半数以上は、がんターミナルの患者さんですが、24時間対応体制となったことで、休日・夜間の緊急訪問や人生の最期に立ち会うことも少なくありません。利用者やご家族にとって、「その人らしく最もよいカタチで終末期を過ごす」ためのお手伝いができるよう、多職種と連携し支援できる体制を整えております。

船橋中央病院の訪問看護は、どのような状況にあっても、地域の皆様の「家で暮らしたい」思いを応援し、寄り添える訪問看護ステーションを目指していきたいと思っております。

副看護部長 小関 由美子

# 各地で発生する災害とJCHO

昨今、大地震や大型台風、水害等、列島北から南まで大災害に見舞われています。

今回は自然災害をテーマにして、どのような状況に直面し、そこから得られた教訓等を今後の未知なる災害に備えるべく対策についてお話いただき、各地にある JCHO 病院の大いなる共有財産としていきたいと思えます。(冒頭あいさつより 前野)

## 震災当日の古家院長の動向

3:07頃	震災発生 大きな揺れで起床。
3:20頃	病院へ向かおうと支度中に停電 ・停電後の病院の状況を確認 ・自宅車庫のシャッターが開かず、自転車で行くことになる。
5:00頃	病院へ到着。当直看護師から状況報告を受ける。
5:30頃	病院幹部を集め「院内対策本部」の設置と開催。当面の対応方針を協議、決定。
7:30頃	電子カルテシステムの動作確認が終了し、運用再開。
8:40頃	広域災害救急情報システム (EMIS) へ個人所有のスマートフォンから情報の入力。
9:00頃	通常外来は停止。 ・当面は救急対応と処方薬が無くなった患者の対応のみと決定。(処方は4日分のみ)
10~11時頃	道内が全域停電と知り、コージェネレーションの電力供給対象の拡大を検討。
午後	コージェネレーションシステムの屋内配線を調整し、電力供給範囲を健康管理センターまで拡大。 ・電力供給対象を厨房、透析室、CT室などに拡大。 ・救急隊の養成を受け、当院通院者以外の一般救急搬送の受け入れ開始。 ・夕食から厨房で調理した食事を提供。
17:20頃	北海道電力からの電力再開



JCHO 北海道病院  
院長  
古家 乾

**古家**▼北海道病院は札幌市指定の災害地基幹病院となっております。医療班を2チーム組織しています。北海道胆振東部地震発生当日の私的動向は右表の通りです。

今回の地震は、震源地の付近にあった北海道電力の火力発電所に大きな被害があったため長期間の停電になりました。院内で対策を立てることと、近隣の病院同士、薬局や、給食事業者と「どのくらい食事、食材が納入できるか」な

**古家**▼東日本大震災の後に自家発電が目ざされ、当院では、現在の病院を建て替えた2001年からガスコージェネレーションシステムを導入しました。環境問題についても天然ガスはクリーンエネルギーで、熱量も高く、ガス会社が

**根橋**▼停電が3日程度続いた場合はどんな感じですか。

停電に際して院内のネット環境の不具合などが判明したため、この10月中に改善工事を行い、電子カルテ端末は概ね使えるようになりました。

ど、連絡できないことが非常に大きな問題でした。幸いにも病院には17時20分には電力供給が再開されたので、その後は問題なく対処できました。



JCHO 湯布院病院  
院長  
根橋 良雄

**根橋**▼熊本地震発生の日、学会があつて東京にいました。深夜に最初の地震が来て、すぐ病院に連絡したら職員も病院も問題ない。安心して一晩過ごし学会に出た日の午前2時過ぎに2度目の本震がおきて大変なことになっていると病院から連絡が入り戻って活動を始めました。

一瞬停電になりましたがすぐに非常用電源に切り替わり、病院1

**前野**▼次に、熊本地震、九州北部豪雨災害を受けました湯布院病院のお話を伺います。

耐震性の強いパイプに埋め換えているそうです。最悪の場合に備えてLPGタンクを置いてあるのですが備蓄分では19時間ぐらいしか持ちません。色々な病院が同じ非常電源の同じ燃料に頼らず分散していたほうがいいと感じました。

札幌市内の地域支援病院の会合でも震災時にタンクローリー給油のための電源車確保が大変だったと聞きました。

階部分は復旧しました。しばらくすると九州電力が復旧、停電自体は2時間程度でした。

震災の被害としては、屋上に2基ある高架水槽の接合部分が破断して使えなくなりました。貯めてあった水が流れ込み、職員が対応してコンピューター室など主要部分には入らないようには食い止めました。その後は、屋上の高架水槽の応急処置を行いました。建物も4か月後には修復できました。朝になり、特に困ったのは、老朽化している建物は大丈夫なのか。明らかに崩れている様子はないが、建物が壊れてしまう危険性があるなら、約200人の入院患者さんをどうするか、朝になったら近隣住民や外来患者も来る、職員も含めると400人ぐらいの人間が建物の中にいるので突然、崩れてしまったらと考えました。

そこで数年前に補強工事を請け負った業者に建物を確認してもらったところ「取りあえず大丈夫」という見解で、緊急避難させる必要はないと判断しました。うちにはリハビリ用温水プールがあります。その水を使ってトイレを流していたのですが、トイレの排水管も破断して汚水が出てくる部分もあって、衛生面が心配になってき

ました。

入院患者にお年寄りが多いので、感染症が実際に広がり始めたら生死に関わる恐れがあります。患者さんを他の場所に移すことを決めて連携室等で早速対応し始めました。自宅へ戻れる方は一時退院、病状的にできない場合には他の病院へ受入れのお願いをして、患者さんの安全を第一としました。

## 風・水害対策も重要

**前野**▼昨年、今年と台風被害に遭われました京都鞍馬口医療センター  
お願いします。

**島崎**▼当院は、京都市街地でも北部にあり、今年は大阪の北部地震もありましたが、病院への大きな被害は幸いにもありませんでした。地震よりも、台風の被害が大きく、特に風害が目立ちました。昨年、台風21号では看護師寮の屋上の防水シートが飛ばされ近隣住民にご迷惑をお掛けしました。また、今



JCHO 京都鞍馬口医療センター  
院長

島崎 千尋

年の台風21号でも、健康管理センターの屋根が剥がれたり、倉庫の外壁が崩れたり、病棟の診療科の看板、こちらはかなりの重量があるものですが曲がったり、窓ガラスも2枚破損しました。強風対策が重要だと思います。

台風のとときは、大雨と風が心配です。雨も強いと雨漏りなどもあります。当院の自家発電機は地下2階に設置しています。大きな装置なので多くの病院が地下に設置していますが、水害がありますと発電機が水没して使えない状況になります。他にも電子カルテのサーバーも地下に置いているのですが、2階や、3階に上げることも今後の対策だと思っております。

**前野**▼確かに自家発電機や放射線機器など高価な医療機器は地下設置することが多いのですが浸水の被害はあまり想定していないと思います。

**古家**▼うちも電子カルテのサーバーは、7階に上げていますが、自家発電機は地下に設置しています。近隣に豊平川があり、氾濫したら、自家発電機へ被害があるとは思いますが、現実的には発電機を上上げるのは難しいですね。

**前野**▼最後は船橋中央病院です。千葉県の災害医療拠点病院として非

常に対策も進んでいると聞いております。

**横須賀**▼幸いにも大きな災害はなく  
過ごしております。

一番の問題は、病院自体の耐震性です。病院の中央部分が築40年前後で、両脇に新しい建物になっています。大きな地震がありますと、中央部分が壊れる危険があります。耐震性の確保に向けて関係機関や、本部と協力してなるべく早い対応が必要だと思っています。船橋は東京から20キロぐらいの所で、首都直下型地震が発生した場合は問題が出てくると思います。首都圏から避難して来る方や、千葉方面に向かう徒歩の方たちも多くいます。うちの付属看護



JCHO 船橋中央病院  
院長

横須賀 収



司会：JCHO 理事（広報担当）

前野 一雄

学校に体育館がありますので、避難する人などに使っていただけのように船橋市と契約を結んでおります。

**船橋市**、あるいは地元医師会と一緒に訓練したりして備えてはいるのですが、想定していないことが起こり得るようなので、それに対しても、準備して怠らないように思っています。

**自家発電機**は、半日ぐらいを賄える量がありますが、被災時にそれが動くのか心配になりました。また、水とか食料も一応3日分程度は看護学校と病院の数力所に分備蓄しています。

**前野**▼船橋中央病院からは事前アンケートで、院内の災害対策マニュアルの見直しなど対応策を具体的に示していただいています。

**横須賀**▼先生方のお話を聞いていま

したら、とても追い付かないんじゃないかと、さらに心配しているところですよ。

**古家**▼うちも3日分の患者さん用の備蓄食はあるのですが、職員分は想定していませんでした。病棟の給食は、業者さんで3日分、病院で3日分それぞれ貯蓄するにしましたが、職員の備蓄食をどうするか、まだ決定していません。他の院長先生は職員の分も備蓄されますか。

**横須賀**▼沢山ではありませんが。

**島崎**▼緊急時に職員がどれだけ集まれるかっていう問題もありますよね。遠方から通勤している幹部職員もいるため危惧しています。

**横須賀**▼私どもも同じです。私自身は電車45分程度のところですが、交通機関が止まったり道路が寸断されたりしたら簡単には行けないですね。他の幹部職員も東京近郊からの通勤になっています。

深夜に災害が発生した場合、集まれる人がそんなに多くないので、非常に危惧しています。

**古家**▼北海道の震災のときは、全道停電したので交通公共機関は動きませんでした。信号も動かないのでバスも動きません。2日目になっても動かなかったので、来るとなると徒歩か自転車。無理に出

動して来るのは難しい問題です。東京や関西では通勤圏が広いので、広域停電では職員の集合はさらに大変だと思います。

## 訓練とは違う

### 職員の安否確認も大変

**前野**▼災害はいつ、どこで発生するのかわかりません。その備えとしてのBCPという病院の機能が継続できる視点が問われています。

**根橋**▼BCPはどこも作られていると思いますが、実際に起きたときにそれをどう活用できるか、難しいところですね。

**古家**▼今回の震災でも解ったことですが、机上で考えて訓練するのは全然違いました。各部署から意見が出て、まずはアンケート調査をして、BCPマニュアルを作ろうとしています。

北海道の停電は、夏と冬では全然違います。コージェネレーションシステムがあるために、院内への電気供給はできますので、事前に決めておけば細かく設定できるのです。そのためにも今年度中にBCPを作ろうと思います。

意外とトイレは電気を使っていることが多い。流すにしてもポタン式だったり、全く機能しない。

節水とかいろんなことに対策していますが、やっぱり昔ながらの蛇口が災害時は一番便利だと感じました。

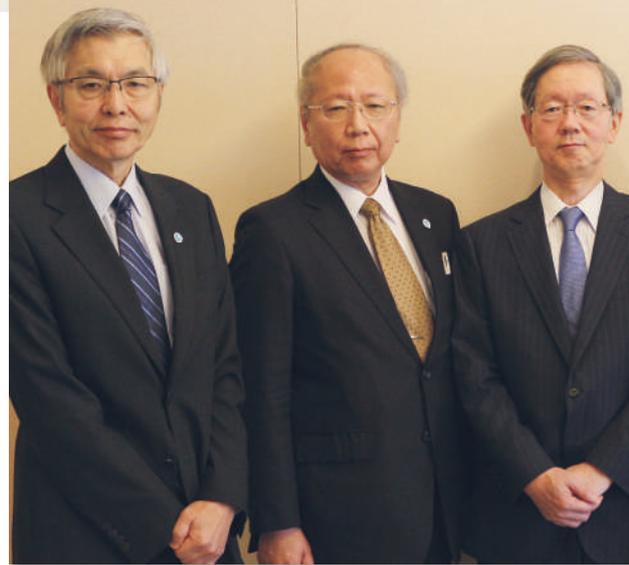
職員の安否確認にも時間が掛かりました。停電して電話が通じないので電話連絡網が、全然役に立ちませんでした。災害時でもつながりやすく、かつデータベースとして情報集約しやすいネット環境を利用した安否確認システムの必要性を痛感しました。

**島崎**▼広域災害医療情報システムは機能はしていたのですか？

**古家**▼EMISですね。機能はしていますが、私が入力した時点では入力済みの病院は少なかったと思います。各病院の建物内インフラの状況で、ネット環境や非常用発電の稼働状況およびEMIS入力担当者の状況によると思います。

先ほどの続きですが、幹部職員ของทีม、緊急手術患者や出産(帝王切開など)への対応チームを作っておいて、メッセージを一斉送信できるとか、また各職員に対しては、安否確認と被災状況、出勤可能・不可能などの項目を登録して病院側システムに送信できるような全体を統括できるネット上の管理システムがあると非常に便利です。今回、一人一人が結果的





に出て来られた人が出て来ただけであって、それを把握することに時間がかかりました。

**前野**▼自然災害への対応に、JCH O本部としてぜひともやってほしい面はありますか。

**根橋**▼コミュニケーションさえとればJCH Oの病院間でいろんな支援関係があると思います。熊本地震は九州病院から震災当日に水と食料を運んでいただきました。連絡が取れたからです。同じ組織の中で事が動くのが必要ではないかと思えます。

## JCH Oネットの活用

**島崎**▼大規模災害が発生したときは近隣の病院も被災しています。そ

のときは、ちょっと離れたJCH O病院に連絡をしたい場合、本部を介して情報をいろいろやりとりできるシステムがあれば非常にありがたいですね。

**古家**▼文字で入力して一斉に配信できるほうが、記録にも残りますし。震災のことを時系列で職員が一生懸命残してはくれたのですが、タイムライン的に把握しやすくなると思います。

千葉県ではコミュニケーションの方法は検討されているのですか。

**横須賀**▼船橋市内では2次救急の12病院で毎月、無線による通信訓練を実施しています。本部と連絡を取るにしても、恐らく首都直下地震のときは、本部も被災している可能性もあるでしょうし、その辺の整備状況を教えていただけだと思います。本部が機能しない状況でも、インターネットは、各拠点の間で通信ができる機能を備えればいいんですが。

職員の安否確認も大事です。近隣に住居があったり、病院の寮に住んでいたりしている方は震度5前後のときは自主的に来ていただくようお願いしてありますが、電話番号など個人情報、扱いに難しいところもあります。

**前野**▼大分県の災害リハビリテーション支援協議会の事務局が、湯布院病院にあるのですか。

**根橋**▼当院では、県から委嘱されて大分県リハビリテーション支援センターを運営しています。大分県内のJ R A T (大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)の事務局を当院で担当しています。東日本大震災で一度は助かったが、その後いろいろな形で亡くなる人がおり、二次被害を何とか防ぐために避難生活のアセスメントを改善する活動を地道に行っています。

**前野**▼市民の公開講座にも積極的に出られている。

**根橋**▼うちはリハビリテーションがメインです。県や市民に対してリハビリテーションを理解していただき、災害発生時には地域に対して貢献したいとやっています。

**前野**▼最後に何かございますか。

**古家**▼国が進めている全国保健医療情報ネットワークのように、クラウドを利用した全国での医療情報共有が有効だと思います。セキュリティも非常に大事なので両方のバランスを考えていかないと駄目だと思っています。JCH Oは全国組織です。JCH O管内でも多くの病院で透析の可否の情

報共有などを考えていく必要があると感じています。

**島崎**▼自然災害は経験してないと解らない。今日は、古家先生など実体験されたお話を聞けて、参考になりました。やはり平時に考えたマニュアルというのはほとんど役に立たないのではないかと。体験された方からお話を聞くことによつて職員の防災意識も高まってくるのではないかと思います。

**根橋**▼災害は来ないことが一番ですが、災害対策をすることで普段のいろんな活動やシステムの強化にもつながっていくと思っています。災害についてきちんと対応すること、普段の活動にも必ずやるんな形で役に立つと思つてます。

**横須賀**▼耐震性の問題や、周産期センターがありますので、小さい子供たちが被災したときの心のケアなど不安な面もあります。JCH Oとして57病院の全国のネットワークがありますし、本部を中心にそれぞれの病院のネットワークを充実していくということが必要ではないでしょうか。

**前野**▼非常時こそ医療機関の社会的使命が求められるわけですが、普段の準備が何よりも重要だと、改めて認識しました。お忙しい中、ありがとうございます。

# 今、JCHOに求められるもの ～絆の継承とリノベーションへの挑戦～



第5回JCHO地域医療総合医学会  
会期 二〇一九年十一月一日(金)・二日(土)  
会場 パシフィコ横浜  
会長 内野直樹 (独立行政法人地域医療推進機構理事長)

特別講演 尾身 茂 (独立行政法人地域医療推進機構理事長)  
「仕事に教えてくれたこと」  
講師 檀ふみ (女優)

今回のシンポジウムでは、前半は先ず基調講演として行政の立場から内閣官房、健康・医療戦略室参事官の田中謙一様に「次世代医療基盤法」についてご講演を頂いた。これは国が推進する「未来投資戦略」や「健康・医療戦略」の一環である「新しい医療・介護システム」の実現のために、2020年の本格稼働に向けた全国規模の医療データ活用基盤構築を容易にするための法整備であ



継続テーマシンポジウム①

## 「地域医療の革新と地域づくり」

座長

JCHO福井勝山総合病院 院長

兜正則

JCHO北海道病院の古家乾院長と共に座長を務めた。近年のめまぐるしく

進化する医療のICT化の中、JCHOが進める先進的で効率的な良質の地域医療・地域包括ケアシステムを実現するためには、健康・医療・介護を融合したICT化と医療情報連携基盤(EHR)の整備や、ネットワークを活用した地域の組織連携の強化が欠かせない。

る。次に産学官の立場から京都大学・宮崎大学名誉教授の吉原博幸先生に「日本初の本格的EHR・千年カルテプロジェクト」でご講演を頂いた。これは地球上のどこからでも患者さんが自分のカルテ情報にアクセスできるシステムの実現のために、政府の次世代医療ICT基盤協議会が立ち上げたのが「千年カルテプロジェクト」であり、吉原先生が主導して全国展開を推進している先進的なEHRで、収集された医療ビッグデータの2次利用によって医療の質向上を図るのが大きな目的の一つである。

後半はJCHO内のEHRの取り組みを発表頂いた。先ず地方の立場からJCHO福井勝山総合病院の多田義和経営企画主任に「福井県でのICTを用いた医療情報連携システム」について、次に中央の立場でJCHO本部総務部IT推進課の西川英敏課長に、JCHOが推進する「JCHOクラウド・プロジェクト電子カルテ導入の経緯と今後の展望」について発表を頂き、最後に第2期JCHOクラウド型電子カルテ導入のパイロット施設であるJCHO宮崎江南病院の白尾一定院長に導入準備状況と現状についてご報告頂いた。

JCHOはIT推進の一環として、今後JCHO統一仕様のクラウド型電子カルテの導入を進め、JCHO

全病院から収集、蓄積した医療ビッグデータを有効に活用する方策を摸索しているが、今回のシンポジウムでの議論がJCHOにおけるEHRの取り組みの方向性を決める一助になり、「地域医療の革新と地域づくり」に更なる貢献ができれば幸いである。

## 継続テーマシンポジウム②

### 「人材の育成」

座長

白尾 一定

JCHO宮崎南病院 院長



下関医療センター古本たつ子看護部長は、院内教育について、「シャドー研修」「ペンギン研修」など創意工夫を凝らした研修を実施し、看護師離職率を減少させた実績を発表された。札幌北辰病院の井藤達也薬剤科長は、薬剤師教育の問題点から、保険薬局との差別化のために専門薬剤師や認定薬剤師取得への支援について発表された。

高岡ふしき病院の上野勝臨床検査技師長は、日本臨床検査標準協議会

共用基準範囲研修の必要性、役職職員のスキルアップとマネジメント研修について発表された。

諫早総合病院の橋口修卓臨床放射線技師は、医療被ばく低減施設認定取得に向けた研修会の必要性と人材育成について発表された。

JCHO九州病院米田國治事務部長は、これまでの集合研修ではなく、OJT (On the Job Training) と研修後の評価の重要性について発表された。

最後に西辻浩理事より、「研修在り方検討委員会」の結果を踏まえて、本部の「研修委員会」にて具体的な研修計画を決定することを説明して頂いた。いずれの発表も各病院に参考になる発表で、本シンポジウムを通じて各部会が活性化すると強く感じた内容でした。

## 継続テーマシンポジウム③

### 「事務職に求められるマネジメント」を終えて

座長

JCHO理事  
西辻 浩

事務職をテーマとするこの継続シンポジウムは、今回、8月に開催した経営分析研修の受講者3名及び研

修を担った日本経営の担当者に集まっていただいた。

最初に、受講者から、経営分析ツールを活用した自院の分析とそれに基づく課題設定、その解決のための院内での取り組みの状況について、次いで、日本経営から、経営企画を担う人材の必要性や期待される役割について、説明があった。

討論では、受講者の取り組みに関して、病院幹部のサポートが得られているとの発言、メデイカルスタッフとの協働が進みつつあるとの発言があった。また、研修成果を事務職員の間で共有する取り組みについても報告された。

会場からは、受講者の院内での活躍を評価する意見や、職員の研修受講が院内全体の経営改善の意識づけに役立っているとの意見が出された。

経営分析研修及び今回のシンポジウムを通じて、分析力や調整力を備えた企画経営スタッフの必要性を改めて痛感した。20名の受講者の病院での活躍を期待するとともに、今回の研修結果を検証し、更なる事務職のスキルアップに取り組んでいきたい。



## 継続テーマシンポジウム④

### 「特定行為研修制度を活用した地域医療への貢献に向けて」

座長

瀧村 佳代

JCHO理事



JCHOは平成29年3月、公的病院グループとして初めて看護師の特定行為

研修の指定研修機関となり、研修体制の構築、研修の実施に取り組んでいる。今年度は、新たに指導者育成事業の実施団体として講習会を開始した。本シンポジウムは、特定行為研修制度を活用した地域医療への貢献に向けて、「チーム医療におけるタスクシフト・タスクシェア」をテーマとして各職種の立場から事例発表や意見交換を行っていただいた。

各演者の発表に様々な研修修了者の活動事例が盛り込まれており、具体的な活動イメージを参加者が形成できたのではないかと感じた。フロアからも「このような内容で協働できるのであれば医師の業務負担が軽減されるだろう」「病院の強みにもなる」等の意見が出された。今後の課題はチーム医療の円滑な実施のため

に本研修制度の院内の認知度を向上させること、更に患者・家族との信頼関係構築のために社会全体の制度への理解を得ることである、との演者からの御指摘が印象的であった。

### シンポジウム①

## 「JCHHOにおける健康管理センターの役割」

座長  
JCHHO四日市羽津医療センター 院長  
住田 安弘



今回のシンポジウムでは、「実績のある健康管理センターから

マとし、健診受診者5万人以上の大規模施設の代表者に、問題点と対策、また工夫している点などについて報告をお願いした。

JCHHO山梨病院植竹氏からは、①便潜血などのパンフレットの作成を行うとともに、糖尿病やピロリ菌の治療を受けてもらえる医療機関に協力を依頼したこと、また②健診バスの減車に伴い、収益性や地理的問題を分析し、該当する企業にバス健診から院内健診へ変更してもらったこと、これらにより収益源を最小

限にとどめることができた」と報告があった。

JCHHO三島病院青柳氏からは医師不足について報告があった。バス健診医は人材派遣業者から、また内視鏡は他のJCHHO病院からの応援で繋いでいる。また三島市との連携により土曜日にマンモグラフィなどを実施。閑散期の健診料割引の導入を行なっていると報告された。

JCHHO金沢病院堀氏からは、担当する区域内での受診者に限界が近づいているため、特定保健指導の充実や宿泊ドック、労災保険二次健診の受け入れに力を入れていると報告があった。しかし競合する他院との間に胃内視鏡の検査数に差があるので、今後の課題であるとした。

JCHHO四日市羽津医療センター位田氏は、システム更新時における様々な取り組みについて報告された。リストバンドの採用、OCR導入によるペーパーレス化、データのセキュリティ強化、検査帳票作成による報告時間の短縮化などである。また病院内に総合健診科を設置し、健診異常者を病院へスムーズに取り込む工夫についても報告された。

このように今回は大規模健診センターに報告してもらったが、大きいところはそれなりに問題点を抱えていることがわかった。しかしその問

題を凌駕する対策・工夫を行うことにより、収益増に繋がっているのには一同感服した次第である。さらなる工夫・努力を期待したい。

### シンポジウム②

## 「地域包括ケアにおける認知症への取り組み、これまでとこれから」

座長  
JCHHO東京城東病院 院長  
中馬 敦



本シンポジウムをJCHHO高岡ふしき病院の高嶋修太郎院長と座長を担当し

た。「認知症対応力フォローアップ研修(対応力向上研修)」、「認知機能低下症状の問診票の活用(認知症患者の抽出)」、「認知症患者への集団ケア」、「認知症のタイプ別看護ケア」、「認知症サポートチーム回診」に関する5演題の発表があった。認知症の入院患者の診療、ケアを行う上で、5演題ともに重要な点であり、それぞれの発表で、個々の施設での具体的な取り組み、工夫、現状の問題点が提示された。演者だけでなく会場からも活発な質問や意見があり、有意義な議論がなされた。今後の課題

として、より多くの病院職員(職種問わず)が認知症への強い関心を持ち合わせ、病院全体で認知症患者に適切に対応することが重要と考えられた。これからもJCHHO病院が協力して、それぞれの施設でさらにより良い認知症患者への対応ができるよう期待したい。

### シンポジウム③

## 「JCHHO病院間の医師派遣への対応」

座長  
JCHHO東京新宿メディカルセンター 院長  
関根 信夫



シンポジスト4名、派遣医師(研修医・上級医)、派遣先・元病院それぞれの

立場から発表いただいた。都竹(新宿、研修医)は、秋田病院における地域との濃密な関係(慣れない方言も含め)の中、より大きな責任を担った貴重な経験を報告。渡部(宇和島、院長)は、深刻な医師不足の現状にあってJCHHO3病院からの総合医・研修医派遣により病院が活性化し、従来の整形外科・リハビリの強みが発揮される一方、派遣医にとつ

今、JCHOに求められるもの～絆の継承とリノベーションへの挑戦～

でも良い地域医療の経験が可能とした。笠井（山手、院長補佐）は卒後23年の専門医でありながら新島・登別での、自ら「引きが強い」と称する壮絶な総合医体験を紹介。最後に露木（中京、検査部長）から多くの実績と派遣研修医の実際の声が紹介され、「『真のチーム医療』が経験できた」は印象に残った。医師派遣を通じてJCHO病院間の「絆」がより堅固になり、地域医療の充実と総合診療のキャリア形成に有意義であることが実感できた。



シンポジウム④

「病院の規模と機能に  
応じた経営改善の  
ノウハウ」

JCHO東京蒲田医療センター 院長  
石井 耕司

第4回のJCHO学会、病院の規模と機能に応じた経営改善のノウハウの

シンポジウムに司会の一人として参加致しました。周知の通りJCHOの病院群は全国に小、中、大規模の病院があり、各病院に期待される役割が異なるため病院経営を画一的に論

ずることはできません。今回は小規模病院を代表して登別病院から規模を縮小するものの新築計画で職員のモチベーションが高まり、施設基準の見直しに励んで診療報酬が上がった報告と、秋田病院からは数少ない医師をコメディカルの職員がカバーして経営が改善したとの報告。中規模病院の相模野病院からは伝統ある母子センターと健診センターを柱に内科系医師の充実で病院経営が安定した報告と、熊本総合病院からは院長の

努力によって集められた豊富な医師を擁して最新医療を展開しているとの報告。大規模病院を代表して徳山中央病院からは病床利用率のアップと平均在院日数短縮の実践について報告がありました。総じて病院経営にとって最も大切なことは規模が異なっても、病院の方針を全職員が共有し、それに向けての意思を統一することであると実感致しました。



新たな試み

一般社団法人地域医療機能推進学会事務局長 中村 仁

『第4回 JCHO 地域医療総合医学会』では、幾つかの【新たな試み】を行いました。その主なものとしては、①対談形式による「特別講演」、②『Web版抄録集』の作成、③賛助会員宣伝ブースの設置、④表彰式を懇親会会場で開催、が挙げられます。

- ①については、檀ふみさんの魅力を存分に発揮して戴くため尾身理事長との対談形式にしました。理事長のウィットに富んだ話術と進行で終始和やかな雰囲気での対談となりました。
- ②については、『プログラム・抄録集』の印刷部数を必要最小限に留め開催経費を節減するとともに、医学会に参加されなかった会員の皆様にも学会ホームページから講演内容を閲覧できるようにしました（パスワードは所属施設の総務企画課にお問い合わせください）。
- ③については、日頃から学会の事業運営にご支援ご協力を戴いている賛助会員の企業にも宣伝ブースを活用し医学会を盛り上げて戴きました。
- ④については、懇親会参加者857名が集う熱気溢れる会場で「平成30年度職場チームによる業務改善の取組表彰式」を行いました。なお、盛り上がりすぎたか懇親会の開会を待たずに各テーブルではビールが酌み交わされてしまったのは想定外でした。

山崎会長をはじめ参加者の皆様、ご協力戴きました学会理事並びに各部会の皆様、運営スタッフの皆様に事務局一同心より御礼申し上げます。

事務局では『第5回 JCHO 地域医療総合医学会』の開催準備に取り掛かっております。会場は神奈川県横浜市のパシフィコ横浜です。企画構成や運営方法等に更なる【新たな試み】を行う予定ですのでご期待ください。多くの皆様方の参加をお待ちしております。

『第5回 JCHO 地域医療総合医学会』

会期：2019年11月1日（金）・2日（土） 会長：内野直樹 JCHO 理事  
会場：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市） テーマ：土魂商才

URL：  
<http://www.jchs.or.jp/5jcho/>



## 参加者の声

●今回当院のリハビリ科は急性期・回復期・老健から発表しました。JCHO学会は他の専門学会と異なり、様々な職種の方が一堂に会しリアルタイムでの他施設の情報・意見交換を行える場であり、明日から活かせる事から中長期的な成長へのアシストを得る有意義な機会でした。発表・参加に御協力頂きました方に深く感謝致します。

(うつのみや病院 理学療法士 柏崎 尚大)

●今回デイケアにおける「ICTを活用した地域連携」の発表機会を頂き有難うございました。発表にあたり職員だけではなく、利用者家族、地域の医療・福祉従事者等多大な協力が有り、連携の重要性を再認識しました。今後も地域連携が図れるよう励んでいきたいと思えます。

(うつのみや病院附属介護老人保健施設 作業療法士 高橋 強)

●「手術室麻酔関連薬個別トレイ化への取り組み」という演題で発表しました。発表に至るまでに、院内多くの方の協力と支援をいただいたことを深謝しております。発表を聞いてくださった他院の方からもお声がけいただき、今回のJCHO学会が、日常業務へのモチベーションにも繋がりました。

(埼玉メディカルセンター 薬剤師 與那覇 晃子)

●自部署の人材育成に関する発表だけではなく、JCHO各施設の学術発表やシンポジウムを拝聴することで、大きな刺激を受け有意義な時間を過ごすことが出来ました。これからも、地域医療を支えるJCHOチームの一員として、今学会のテーマでも有る「地域・患者・医療者同士の絆」を大切にしていきたいです。

(埼玉メディカルセンター 看護師長 小山 静香、看護師長 佐藤 宏美)

●栄養部門からは3演題発表しました。総合学会という事もあり、栄養の分野だけでなく多岐に渡る発表を、色々な視点・角度から学ぶ事ができ、又同じJCHOグループとしての刺激を沢山受けた貴重で有意義な2日間でした。

(横浜保土ヶ谷中央病院 副栄養管理室長 小坏 容子)

●「愛知県統一がん診療地域連携パスの現状と今後」について当院がん診療センターの取り組みを発表しました。その他の私の院内での仕事で看護師特定行為研修指導があります。このシンポジウムで大阪病院の指導者の苦悩と秋田県の大森病院の研修修了者の活躍を聞いて当院での参考にしたいと思えました。

(中京病院 手術部診療部長 林 英司)

●発表に向け万全に準備をしましたが、発表当日は会場の広さと参加者の視線に大変緊張しました。しかし皆さんの聴く態度と視線は温かく、安心して発表する事ができました。様々な病院の事例を学ぶだけでなく、自分の看護を発表する貴重な機会を得る事ができました。これらの知識を自分の看護に活かしていきたいです。

(中京病院 看護師 佐々木 和佳)

●初めて学会発表の機会を頂き、一つ一つの言葉の表現の仕方や、限られた時間の中で他者に伝えることに苦戦しながらも、上司の助言を受け自身が成長できました。JCHOグループは地域連携の取り組みを重視しており、他院での取り組みや成果を聴く事で、視点の広がりを得ることができ、貴重な経験をする事ができました。

(中京病院 看護師 武田 千菜美)

●今回は、事務職員の病院経営に対する取り組みなど、見えない部分を学ぶことができました。「対話」を通じて他職種の方々から学ぶことで、連携や情報共有を進めながら、経営改善に取り組む必要性を改めて感じています。このような機会を頂いたことに感謝します。

(下関医療センター 診療放射線技師長 中尾 哲)

●院内マニュアル活用に関する発表を行い、その緊張感と達成感は、学会ならではの体験でした。また研究をまとめ、それを伝えるために試行錯誤した課程が、少なからず自身を成長させたと実感します。壇ふみさんの特別講演で得た言葉「やらなければならないことは、ニコニコとやるもの」は、これから大事に抱えています。

(伊万里松浦病院 看護師 中尾 千春)

●私は初めてJCHO学会へ参加し「手指消毒剤変更と携帯型導入による手指衛生遵守向上への取り組み」というテーマで発表しました。緊張しましたが学会発表という良い経験をさせていただき自己研鑽の機会となりました。学会の会長講演で、山崎芳郎 JCHO 大阪病院院長が職員へ今後に期待することを述べられました。ダーウィンの名言「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである。」を引用され変化する環境に適応していく力を持ち続けるようメッセージが送られました。JCHO 職員として、学び続ける姿勢を持ち変化に対応できる順応力を身に付けていく必要性を感じた学会でした。

(佐賀中部病院 院内感染対策室 松岡 真知子)

●今回、多剤併用対策をテーマに発表を行いました。発表することにより、普段自分たちが行っている日々の業務をデータ化し、客観的に評価できる良い機会となりました。また、学会の間では他施設の取り組みを学ぶこともでき、今後の仕事への刺激にもなりました。

(人吉医療センター 薬剤科 高橋 奈津子)

●今回、初めての学会参加でしたが、諸先輩方の発表を聴講することが出来大きな学びとなりました。また、自分自身もポスター発表の機会を頂き、多くの学びがありました。今回の経験を今後の研究発表や臨床の場に活かしていきたいと思えます。

(人吉医療センター 看護部 西山 竜道)

●今回パートナーシップマインドについて取り組んだ研究を、JCHO学会で発表することができました。初めての学会発表で緊張しましたが、沢山の方に支えられて無事発表することができました。とても貴重な体験をさせていただいたことと、多職種の様々な研究を拝聴でき大変勉強になりました。

(人吉医療センター 看護部 宮原 笑理)

●人材育成のセッションで病棟ラダー教育について演題発表しました。同じセッションの中でもシミュレーション研修というキーワードを度々耳にし、これまでの人材育成の方法論をリノベーションできる示唆を得ることができました。また業務改善最優秀賞の発表は、当病棟でも日々設定に悩まされていたため大変参考になりました。

(人吉医療センター 看護師長 白川 幹子)

●「PCI中の看護」について発表しました。初めての学会発表でとても緊張しましたが、他施設や多職種の取り組みを知ることが出来、多くの学びがあり刺激が多い2日間でした。今回自分の看護を振り返る機会となり、学んだことを今後の看護に繋げていきたいと思えます。

(諫早総合病院 看護師 島田 瑞紀)

●初めてJCHO学会に参加し、口演発表をしました。スライドの作成など苦労しましたが先輩方の協力もあり無事に発表を終えることができました。また、多職種の方の様々な取り組みについても聞くことができ、多くの学びを得ることができ、自院以外のJCHO施設の方とも交流ができる良い機会にもなりました。

(南海医療センター 副看護師長 中野 智美)

●特別講演での壇ふみさんと尾身理事長との会話のキャッチボールが楽しく印象的でした。壇さんが家族介護への充実を話すなか、看護側の立場から、入院中のせん妄症状に対して出現前の予防ケアが出来れば、家族への負担が最小限になったのではという思いが募り、自身のケア方法を改めて考える機会となりました。

(南海医療センター 看護師 廣瀬 晃子)

●保険会社が、医療機関に求める生命保険診断書様式の統一化を行った当院での取り組みを発表させていただきました。今回、初めての学会参加が発表ということで緊張しましたが、院内プレ発表会や多くの方から助言をいただき無事に発表を終えることができました。また他施設の様々な分野の研究発表を聴講でき、とても有意義な2日間でした。

(南海医療センター 一般職員 藤原 陽子)

今、JCHOに求められるもの ~絆の継承とリノベーションへの挑戦~

第4回JCHO地域医療総合医学会 講師・座長・シンポジスト・指定発言者一覧

特別講演 「仕事が教えてくれたこと」

- 【講師】 榎 ひとみ (女優)
- 【座長】 尾身 茂 (一般社団法人地域医療機能推進学会 理事長/JCHO 理事長)
- 会長講演 「大阪病院における絆の継承とリノベーションへの挑戦」
- 【講師】 山崎 芳郎 (大阪：院長)
- 【座長】 内野 直樹 (JCHO 理事)
- 会長企画講演 「チーム医療としてのNSTの温故知新」
- 【講師】 井上 善文 (大阪大学 国際医工情報センター 栄養デバイス未来医工学共同研究部門 特任教授)
- 【座長】 山崎 芳郎 (大阪：院長)

継続テーマシンポジウム1 地域医療の革新と地域づくり

- 【座長】 兜 正則 (福井勝山：院長) 古家 乾 (北海道：院長)
- 【シンポジスト】 田中 謙一 (内閣官房 健康・医療戦略室 参事官)
- 吉原 博幸 (京都大学・宮崎大学 名誉教授)
- 多田 義和 (福井勝山：総務企画課 経営企画主任)
- 西川 英敏 (本部：総務部 IT 推進課長)
- 【指定発言】 白尾 一定 (宮崎江南：院長)

継続テーマシンポジウム2 人材の育成

- 【座長】 木村 健二郎 (東京高輪：院長) 白尾 一定 (宮崎江南：院長)
- 【シンポジスト】 古本 たつ子 (下関：看護部長)
- 井藤 達也 (札幌北辰：薬剤科長)
- 上野 勝 (高岡ふしき：臨床検査技師長)
- 橋口 修卓 (諫早総合：診療放射線技師)
- 米田 國治 (九州：事務部長)
- 【指定発言】 西辻 浩 (JCHO 理事)

継続テーマシンポジウム3 事務職に求められるマネジメント～病院幹部をサポートする経営企画力

- 【座長】 内野 直樹 (JCHO 理事) 西辻 浩 (JCHO 理事)
- 【シンポジスト】 野々山 義仁 (中京：経営企画係長)
- 今石 充映 (大和郡山：経営企画係長)
- 重松 政樹 (久留米：医事課)
- 笹 真人 (株式会社日本経営 ヘルスケア事業部 副部長)

継続テーマシンポジウム4 特定行為研修制度を活用した地域医療への貢献に向けて

- 【座長】 瀧村 佳代 (JCHO 理事) 吉浪 典子 (本部：企画経営部患者サービス推進課長)
- 【シンポジスト】 田城 孝雄 (放送大学 教養学部 教授)
- 畑中 信良 (大阪：副院長・外科診療部長)
- 片山 歳也 (四日市羽津：副薬剤科長)
- 遠藤 愛子 (市立大森病院 看護科 副主任)

シンポジウム1 JCHOにおける健康管理センターの役割

- 【座長】 大友 敏行 (神戸：院長) 住田 安弘 (四日市羽津：院長)
- 【シンポジスト】 榎竹 正紀 (山梨：健康管理センター長)
- 青柳 昌樹 (三島：健康管理センター長)
- 堀 喜彦 (金沢：健康管理センター)
- 位田 浩 (四日市羽津：健康管理センター管理課)

シンポジウム2 地域包括ケアにおける認知症への取り組み、これまでとこれから

- 【座長】 高嶋 修太郎 (高岡ふしき：院長) 中馬 敦 (東京城東：院長)
- 【シンポジスト】 新 博恵 (金沢：看護部)
- 小島 佳代 (山梨：整形外科病棟)
- 小木曾 佳子 (相模野：地域包括ケア病棟)
- 伊勢呂 早苗 (高岡ふしき：認知症看護認定看護師)
- 藤城 健一郎 (中京：内科診療部長)

シンポジウム3 JCHO 病院間の医師派遣への対応

- 【座長】 石岡 隆 (秋田：院長) 関根 信夫 (東京新宿：院長)
- 【シンポジスト】 都竹 伸哉 (東京新宿：初期研修医)
- 渡部 昌平 (宇和島：院長)
- 笠井 昭吾 (東京山手：院長補佐、医療総合支援部長、地域診療・救急部長)
- 露木 幹人 (中京：CCIE 検査部)

シンポジウム4 病院の規模と機能に応じた経営改善のノウハウ

- 【座長】 島田 信也 (熊本：院長) 石井 耕司 (東京蒲田：院長)
- 【シンポジスト】 小澤 慶一 (登別：統括診療部長・整形外科部長)
- 今崎 貴生 (相模野：副院長)
- 大塚 博徳 (秋田：副院長)
- 堀野 敬 (熊本：副院長 兼 外科部長)
- 宮原 誠 (徳山：臨床検査科主任部長)

教育セミナー1 「次世代医療分野ネットワークと地域医療連携のこれから ～あじさいネットからキビタン健康ネット～」

- 【座長】 長郷 国彦 (諫早：院長)
- 【講師】 柴田 真吾 (市立大村市民病院 麻酔科、一般社団法人 福島県医療福祉情報ネットワーク協議会 事務局アドバイザー、NPO 法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会 専務理事)

教育セミナー2 「認知機能低下予防を目的にしたメソッド『シナプソロジー®』の展開について ～スポーツクラブおよび地域支援事業医療・介護分野における展開状況～」

- 【講師】 望月 美佐緒 (株式会社ルネサンス 常務執行役員 健康スポーツ教育研究所 所長、シナプソロジー普及会ディレクター)

教育セミナー3 「睡眠習慣を整え、キラキラ輝く私に!!! ～睡眠不足とヒューマンエラー～」

- 【講師】 白杵 礼司 (東洋羽毛工業株式会社 (一般社団法人 日本睡眠教育機構 認定睡眠健康指導士))

教育セミナー4 「経営改善・組織改善のキーマンとなる「リーダーの考え方」とその「育成方法」」

- 【講師】 兄井 利昌 (株式会社日本経営 組織人事コンサルティング 次長)

教育セミナー5 「大阪病院で取り組んだ医療関連感染制御活動の成果と現状～強い絆に支えられて～」

- 【座長】 山崎 芳郎 (大阪：院長)
- 【講師】 柴谷 涼子 (大阪：看護部看護ケア推進室室長 感染管理認定看護師)

一般演題 口演発表 (282 題)

テーマ	演題数	座長
働き方改革他	6	矢野 哲 (東京山手：院長)
地域医療・介護 (介護)	18	山下 智省 (下関：院長)、内山 明彦 (九州：院長)、池田 登 (玉造：院長)
連携 (地域連携)	12	黒田 豊 (さいたま北部：院長)、森本 章生 (南海：院長)、
連携 (患者-医療者のパートナーシップ)	6	芳賀 克夫 (天草：院長)
運営 (人材育成)	18	室谷 典義 (千葉：院長)、松本 高宏 (福岡ゆたか：院長)、伊藤 美夫 (登別：院長)
安全 (感染・褥瘡防止他)	18	六角 裕一 (二本松：院長)、小澤 俊総 (山梨：院長)、野田 芳人 (三島：院長)
患者サービス	12	河嶋 知子 (JCHO 本部 企画経営部医療担当副部長 (看護担当))、中城 博見 (伊万里松浦：院長)
接遇他	6	細川 亙 (大阪みなと：院長)
医療技術	52	山田 光俊 (高知西：院長)、相川 竜一 (桜ヶ丘：院長)、氏原 健吾 (諫早：診療放射線技師長)、木野田 祐一 (神戸：診療放射線技師長)、高橋 健 (京都鞍馬口：放射線科部長)、野田 吉和 (相模野：院長)、朝倉 徹 (山台南：院長)、稲村 一浩 (星ヶ丘：リハビリテーション士長)、山崎 隆幸 (金沢：リハビリテーション士長)
地域医療・介護 (医療)	11	藤田 直晃 (横浜：院長)、絹川 常郎 (中京：院長)
高齢者医療	4	田熊 淑男 (山形：院長)
地域包括ケア	17	深澤 元晴 (船橋：副院長)、岸田 喜彦 (可児とうのう：院長)、後藤 英司 (保土ヶ谷：院長)
連携 (退院調整・クリニカルパス)	6	浅見 昭彦 (佐賀中部：院長)
連携 (チーム医療)	28	河野 幸祐 (若狭高浜：院長)、来見 良誠 (滋賀：院長)、田中 真紀 (久留米：院長)、内藤 浩 (群馬：院長)、鈴木 奈穂子 (中京：栄養管理室長)
運営 (病院運営)	7	木村 正美 (人吉：院長)
運営 (組織マネジメント)	5	那須 誉人 (徳山：院長)
検診	6	村本 弘昭 (金沢：院長)
診療	16	高橋 昌宏 (札幌北辰：院長)、長郷 国彦 (諫早：院長)、吉田 武史 (埼玉：院長)
安全 (医療の質の向上)	28	根橋 良雄 (湯布院：院長)、松村 正彦 (大和郡山：院長)、大森 浩二 (りつりん：院長)、草野 英二 (うつのみや：院長)、磯谷 聡 (中京：薬剤部長)
安全 (医療安全・医療事故調査制度)	6	高取 吉雄 (湯河原：院長)

一般演題 ポスター発表 (132 題)

テーマ	演題数	座長
地域医療・介護 (医療)	11	神田 真一 (湯布院：理学療法士長)、堀 由美 (北海道：看護部長)
地域包括ケア	5	松岡 君代 (宇和島：総看護師長)
医療技術他	9	佐藤 美樹 (うつのみや：総看護師長)、濱本 英治 (九州：臨床工学技士長)
運営 (病院運営他)	7	細川 博嗣 (大阪：事務部長)
連携 (チーム医療)	17	鈴木 佐紀 (山台南：看護部長)、林 秀俊 (九州：リハビリテーション士長)、福田 妙美 (諫早：看護部長)
安全 (医療安全・医療事故調査制度他)	5	瀬高 香澄 (熊本：看護部長)
安全 (医療の質の向上)	12	野月 千春 (東京新宿：看護部長)、坪内 純子 (玉造：看護部長)
内部統制・リスク管理他	5	田附 満 (札幌北辰：理学療法士長)
患者サービス他	6	大矢 早苗 (中京：看護部長)
働き方改革・診療報酬改定	5	沼田 友一 (埼玉：理学療法士長)
運営 (人材育成他)	10	小泉 由貴美 (札幌北辰：看護部長)、今 麗子 (東京高輪：看護部長)
連携 (地域連携)	6	永井 玲子 (保土ヶ谷 看護部長)
地域医療・介護 (介護他)	10	田中 小百合 (大阪：看護部長)、尾崎 美智恵 (神戸：看護部長)、
高齢者医療他	4	入部 直子 (人吉：看護部長)
連携 (退院調整)	4	野村 仁美 (金沢：看護部長)
連携 (患者-医療者のパートナーシップ他)	4	長谷川 美穂 (東京山手：看護部長)
検診他	6	本田 康恵 (福井勝山：総看護師長)
安全 (感染・褥瘡防止他)	6	園田 保子 (埼玉：副看護部長)

# 平成30年度 職場チームによる 業務改善の取り組み表彰式

**最優秀賞**▼JCHHO熊本総合病院  
モニターアラームコントロールチーム  
モニターアラーム関連事故を防ぐ  
新しいJCHHO-K・MACT基準

この度は、荣誉ある最優秀賞を頂き、誠にありがとうございます。これも、当院のモットーである『医療と共に公に一肌脱ぐ』という言葉に胸に刻んで、医師を始め、看護師、コメディカルが一丸となって取り組んだ結果であり、チーム医療の大切さを感じています。このモニターアラームコントロールの結果を病院全体、そして、JCHHO全体に広げることが出来るよう努力してまいります。この度は誠にありがとうございました。

## 【チームメンバー】

上村孝史(循環器内科医長)、福嶋隆一郎(循環器内科医長)、片山哲治(循環器内科医長)、田山信至(循環器内科診療部長)、大森隆浩(臨床工学技士)、谷口総志(副臨床工学技士長)、井川美江(副看護師長)、前橋正美(看護師)、海崎裕美子(看護師)、成松義雄(理学療法士)、柳浦康子(総務係)



**優秀賞**▼JCHHO北海道病院  
チームNST!!  
業務経営改善と地域に目を  
向けた活動を目指して

この度は、優秀賞を頂き感謝申し上げます。私達は、院内だけでなく地域医療推進の為、院外にも目を向け5年計画で活動中です。その目標は経腸栄養での収支改善、入院中の誤嚥性肺炎予防と院外への啓蒙、NST実地修練計画見直し等多岐に渡ります。特に札幌市内で高齢化率が高い当院周辺地域は、褥瘡・誤嚥等の予防が重要と考え、地域対象の研修会を今後開催予定です。これからも多職種連携の力を最大限に発揮し活動して参ります。

## 【チームメンバー】

瀧川博子(主任栄養士)、正村裕紀(外科部長)、太田亮(耳鼻科医長)、梅田美智子(看護師長)、森本雅子(薬剤師)、城宝深雪(言語聴覚士)、齋藤幸(ソーシャルワーカー)



**優秀賞**▼JCHHO大阪病院  
災害に挑む大阪病院どんとチーム  
他職種と協働しBCPマニュアルを  
作成した副看護師長の取り組み

今回、私達は患者や職員  
の安全を考え、今後起こりうる災害に対応できるマニュアル作成を目指して活動を行いました。当初は、副看護師長のみで始まった取り組みでしたが、多職種と協働することで院内災害マニュアルを完成させることができました。多くのご協力、ご支援が今回の賞に繋がったと考えております。今後も職員一丸となって様々なことに積極的に取り組んでいきたいと思っております。この度は本当にありがとうございました。

## 【チームメンバー】

上村千恵(副看護師長)、副看護師長  
39名、佃達也(総務企画課係長)、古田由美子(副看護部長)、喜多由賀里(副看護部長)



**優秀賞**▼JCHHO神戸中央病院  
チームスポンジブフシ  
入院中から在宅まで脳卒中患者  
さんへの途切れない口腔ケアを  
目指して「神戸市北区モデル」

我々は入院中の脳卒中患者さんに対して積極的に口腔ケアを行い、退院後も途切れないよう訪問歯科などその後のニーズに合った地域の歯科医院を紹介するという活動を行っています。この活動は当院の医科歯科連携と神戸市北区歯科医師会の協力で歯科業界では先駆的な病診連携モデルになったと考えます。この度の受賞をはずみにチーム一丸となってより多くの患者さんに質の高い口腔ケアを受けていただけるよう励んでまいります。

## 【チームメンバー】

松本耕祐(歯科医師)、柴枝美(歯科衛生士)、松田洋美(歯科衛生士)、勝岡舞(歯科衛生士)、高田裕美子(歯科助手)、足立純子(歯科受付)、棚倉芳紀子(歯科医師)、中西洋介(歯科医師)、桑山行医師、古野優(医師)、辻麻人医師、中田章弘(医師)、中正貴之(医師)、増田萌美(看護師)、横野拓海(看護師)、岡山史子(医療社会事業専門員)、倉田佳和(地域連携係長)、皆本美喜(看護部長)、中戸真美(看護師長)、小別所博(医師)、松本吉吾(副院長)



**優秀賞**▼JCHHO三島総合病院  
地域包括ケアワーキンググループ  
地域包括ケア病棟運用  
システムの構築

この度は、地域包括病棟運営システムの構築への取り組みについて評価していただき、荣誉ある賞を頂いた事に深く感謝申し上げます。メディカルスタッフとの連携により、個々の専門性を発揮し、連携室の「待たせない地域連携の対応」が地域との信頼関係にもつながった結果と考えます。今後も地域から選ばれる病院運営を目指して病院運営に寄与していきたく思います。

## 【チームメンバー】

松山嘉彦(地域連携係長)、水原誠(外科診療部長)、平塚世津子(総看護師長)、大沼以恵(副総看護師長)、小川麻由美(看護師長)、堀口瑞穂(看護師長)、増田直子(地域包括ケア病棟係長)、竹内愛子(看護師)、梅原ゆかり(主任医療社会事業専門員)、尾熊洋子(リハビリテーション士)、石月亜由美(副理学療法士長)、秋山雅代(入院係主任)



# 内視鏡手術支援ロボット (ダヴィンチ)の導入

チームダヴィンチによる1例目  
12月13日に初執刀

JCHO東京新宿メディカルセンター 泌尿器科 木藤 宏樹

当院に da Vinci X が導入されました。最も普及している前立腺全摘除術から開始することになり、12月13日に1例目を執刀予定で、泌尿器科医師、麻酔科医師、看護師、臨床工学技士、医事課がチームダヴィンチとして準備を進めております。これまでに職員向けの内覧会、院外向けの説明会を開催し、2018年11月30日にはシミュレーションも行いました。他施設に自立的に何度も見学に行き準備をしてきている看護師や、導入から広報活動までを支えてくださる事務の方の熱意に感銘を受けています。東日本の JCHO で最初の導入であり、他科への導入だけでなく、JCHO 間の病棟連



携、機器共同利用も目標としています。興味のある方は、見学など随時受け付けておりますのでご連絡ください。



ダヴィンチサージカルシステムを導入して5年が過ぎました

JCHO徳山中央病院 泌尿器科主任部長 三井 博

2012年4月に前立腺癌に対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘出術が保険適用となり、当院ではダヴィンチサージカルシステム(Si)を2013年5月に購入いたしました。泌尿器科ダヴィンチ支援手術教育プログラム終了後に他施設への見学を行って、患者体位の確認役割、責任の確認・ポータ位置の確認・配置、ドッキング方法の確認・コンソール操作方法の確認などを実地に学びました。9月よりプロクターを招いて数例症例を重ねました。その後は、自立して年間約50例を治療しております。現在は技術認定者が3名となり、腎癌や膀胱癌への適応拡大を検討しています。大型の機器をセッとする必要があるために、麻酔医・看護師・臨床工学技士の協力のもとに、チーム医療を心掛けて、今後も患者さんに安心して安全な医療を提供していきます。

最新型ロボット支援手術の導入について

JCHO熊本総合病院 外科医長 森田 圭介



2018年8月に、前立腺癌手術に加え、先ず直腸癌手術において最新型手術支援ロボット「da Vinci Xi」を導入しました。熊本県内では3番目の導入病院(最新型は初)であり、従来の開腹手術と比べ、複雑に曲がるロボット鉗子の支援により、直腸に密接する骨盤神経叢を繊細かつ丁寧に温存することが可能となり、術後の排尿・性機能の保持や早期の回復が期待されます。導入に際して、①日本内視鏡外科学会技術認定医資格、と、②規定 Certification の取得は済んでおりますので、今後、③年間30例以上の直腸癌手術等のハードルをクリアすることが必要です。それに向かって、外科・泌尿器科のみならず麻酔科、看護部、臨床工学技士や事務スタッフ等で「ダヴィンチチーム」を結成し、初回手術まで約4か月の期間を要しましたが、極めて順調に進捗しております。今後も、ロボット支援手術が患者様の大きなメリットとなるように、熊本総合病院ダヴィンチチームが一丸となって邁進して参ります。

安心の地域医療を支える

# JCHO GROUP

地域医療機能推進機構  
全国病院MAP

本部

〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 URL <http://www.jcho.go.jp/>  
TEL:03(5791)8220 FAX:03(5791)8258

**北海道病院**  
旧：北海道社会保険病院

**札幌北辰病院**  
旧：札幌社会保険総合病院

**登別病院**  
旧：登別厚生年金病院

北海道

**秋田病院**  
旧：秋田社会保険病院

**うつのみや病院**  
旧：宇都宮社会保険病院

**群馬中央病院**  
旧：社会保険群馬中央総合病院

**山梨病院**  
旧：社会保険山梨病院

**仙台病院**  
旧：仙台社会保険病院

**仙台南病院**  
旧：宮城社会保険病院

**二本松病院**  
旧：社会保険二本松病院

東日本

**徳山中央病院**  
旧：総合病院社会保険徳山中央病院

**下関医療センター**  
旧：社会保険下関厚生病院

**九州病院**  
旧：九州厚生年金病院

**久留米総合病院**  
旧：社会保険久留米第一病院

**福岡ゆたか中央病院**  
旧：健康保険直方中央病院

**佐賀中部病院**  
旧：佐賀社会保険病院

**伊万里松浦病院**  
旧：社会保険浦之崎病院

**高岡ふしき病院**  
旧：社会保険高岡病院

**金沢病院**  
旧：金沢社会保険病院

**福井勝山総合病院**  
旧：福井社会保険病院

**若狭高浜病院**  
旧：社会保険高浜病院

**玉造病院**  
旧：玉造厚生年金病院

近畿

**さいたま北部医療センター**  
旧：社会保険大宮総合病院

**埼玉メディカルセンター**  
旧：埼玉社会保険病院

**千葉病院**  
旧：千葉社会保険病院

**船橋中央病院**  
旧：社会保険船橋中央病院

**東京高輪病院**  
旧：せんぼ東京高輪病院

**東京新宿メディカルセンター**  
旧：東京厚生年金病院

**東京山手メディカルセンター**  
旧：社会保険中央総合病院

**東京城東病院**  
旧：城東社会保険病院

**東京蒲田医療センター**  
旧：社会保険蒲田総合病院

**桜ヶ丘病院**  
旧：社会保険桜ヶ丘総合病院

**三島総合病院**  
旧：三島社会保険病院

東海北陸

**大阪病院**  
旧：大阪厚生年金病院

**大阪みなと中央病院**  
旧：大阪船員保険病院

**星ヶ丘医療センター**  
旧：星ヶ丘厚生年金病院

**神戸中央病院**  
旧：社会保険神戸中央病院

**滋賀病院**  
旧：社会保険滋賀病院

**京都鞍馬口医療センター**  
旧：社会保険京都病院

**大和郡山病院**  
旧：奈良社会保険病院

**南海医療センター**  
旧：健康保険南海病院

**湯布院病院**  
旧：湯布院厚生年金病院

**宮崎江南病院**  
旧：社会保険宮崎江南病院

**諫早総合病院**  
旧：健康保険諫早総合病院

**熊本総合病院**  
旧：健康保険熊本総合病院

**人吉医療センター**  
旧：健康保険人吉総合病院

**天草中央総合病院**  
旧：健康保険天草中央総合病院

九州

**横濱中央病院**  
旧：社会保険横浜中央病院

**横濱保土ヶ谷中央病院**  
旧：横浜船員保険病院

**相模野病院**  
旧：社会保険相模野病院

**湯河原病院**  
旧：湯河原厚生年金病院

**可児とうのう病院**  
旧：岐阜社会保険病院

**中京病院**  
旧：社会保険中京病院

**四日市羽津医療センター**  
旧：四日市社会保険病院

四国

**りつりん病院**  
旧：社会保険栗林病院

**宇和島病院**  
旧：宇和島社会保険病院

**高知西病院**  
旧：厚生年金高知リハビリテーション病院

四国

**JCHO「理念」**

我ら全国ネットのJCHOは  
地域の住民、行政、関係機関と連携し  
地域医療の改革を進め  
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

**地区事務所**

本部北海道四国地区管理部 〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12  
 東日本地区事務所 〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12 1F  
 東海北陸地区事務所 〒457-0866 愛知県名古屋市中区三條1-1-10 中京病院健康管理センター内  
 近畿地区事務所 〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78 JCHO大阪病院別館3階  
 九州地区事務所 〒806-0034 福岡県北九州市八幡西区岸の浦1-8-1 九州病院内

URL <https://www.jcho.go.jp/>

JCHO×ニュース  
「ジェイ・コミュニケーションズ」 2019 WINTER 冬号 vol.20 独立行政法人地域医療機能推進機構 〒108-8583 東京都港区高輪3丁目22番12号 tel:03-5791-8220